

待降節第一主日からミサ典礼が変わりました

1964 年以前、ミサはラテン語で行われていました。

- 1964 年、第二バチカン公会議の典礼刷新により、それまでのラテン語のミサは、それぞれの地域の言語で行われるようになりました。
- 日本でも、1975 年「ローマ・ミサ典礼書」規範版第二版が発行され、1978 年現在の日本語版「ミサ典礼書」が暫定版として発行されました。
- 2000 年より改訂作業本格化。2001 年、典礼秘跡省から規範版に忠実な翻訳が求められる
- 2021 年、規範版第三版に基づく「ミサの式次第と第一～第四奉献文」等が典礼秘跡省に認証されたため、ようやく日本語のミサ典礼書の決定版の完成となった。

ミサ典礼書のラテン語を忠実な日本語に訳すのに半世紀かけました。



どこを、なぜ、変えるのか、
くわしく知りたい方のために
本が出版されています。

『新しい「ミサ式次第と第一～ 第四奉献文」の変更箇所』

カトリック中央評議会発行
(本体 260 円+税)

サンパウロなどの書店で。
通販でも購入できます。



2022 年 11 月 27 日より、ミサの
「司祭の祈りのことば」、「会衆の応唱の
ことばとタイミング」、「賛歌の内容」と
「歌唱の場合の旋律」等が変更されてい
ます。会衆用式次第簡易版は教会事務所
で 110 円で販売しています。(典礼)